

第4回WGでの委員からの 御質問に対する回答について

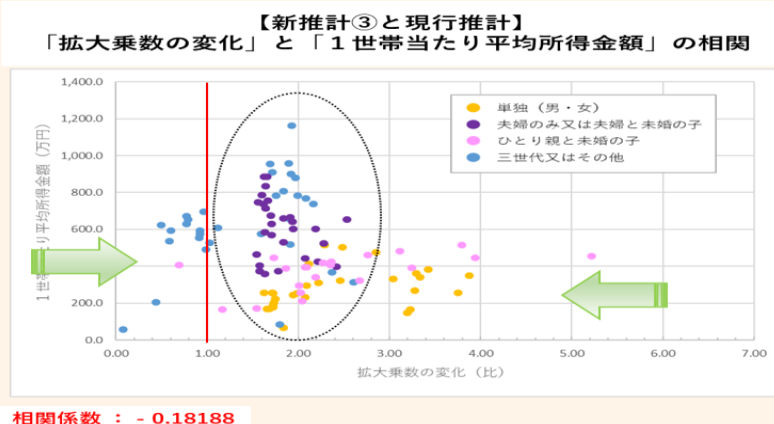
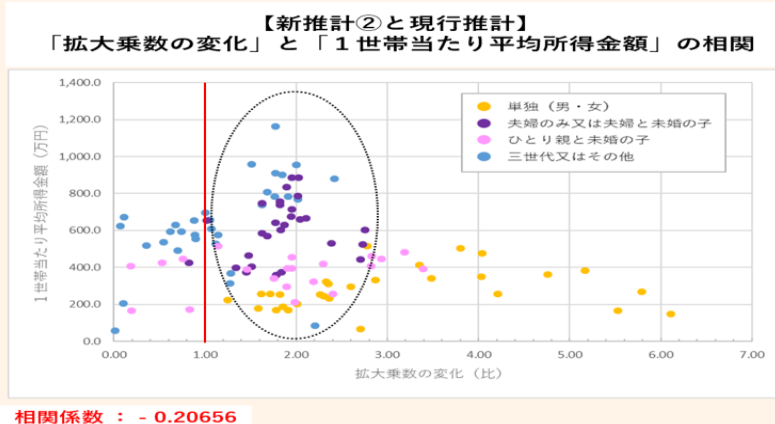
1. 質問内容

1世帯当たり平均所得金額（以下「所得」という。）について、

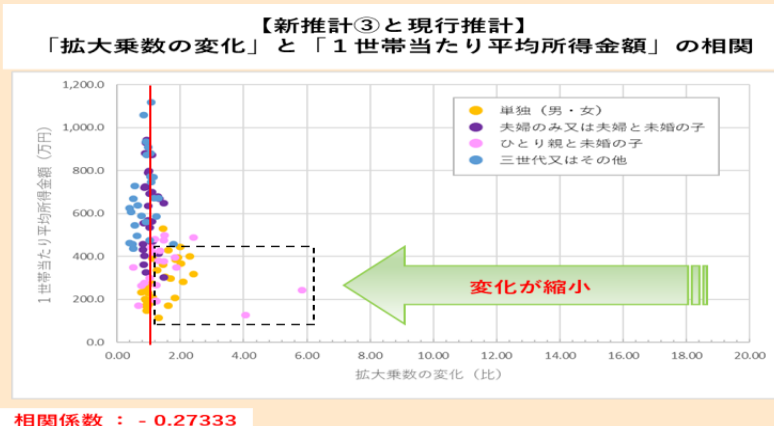
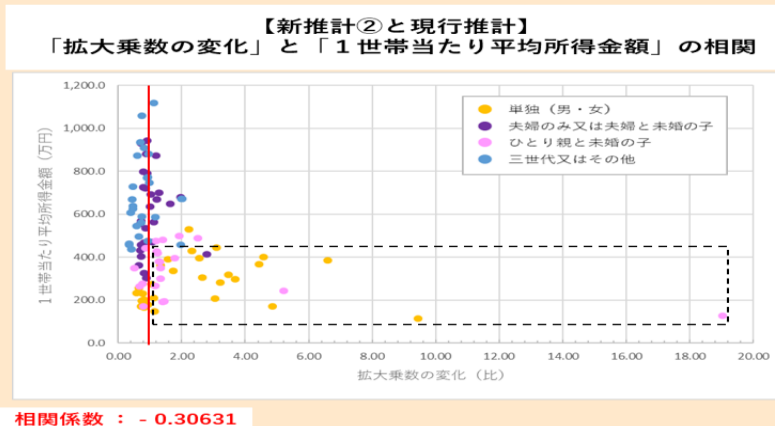
- ・平成21年所得（大規模調査）では、新推計②の結果（533.2万円）と新推計③の結果（533.3万円）で違いがみられない。
- ・平成26年所得（簡易調査）では、新推計②の結果（513.0万円）と新推計③の結果（529.1万円）で違いがみられる。

以下の「拡大乗数の変化」と「所得」の相関により、この両年における結果の違いは理解できたが、これは「たまたま」なのか、それとも「構造的要因」によるものなのか。

平成21年
所得



平成26年
所得



2. 回 答

平成21年及び26年以外の年次である平成23年、24年、25年及び27年の所得をみると、

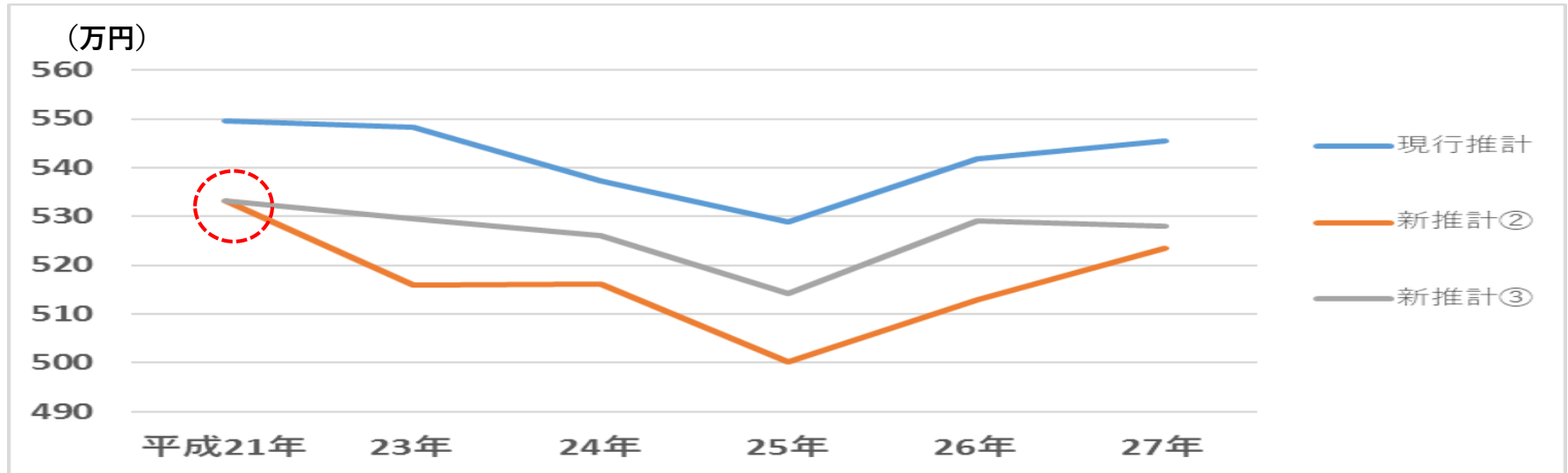
- ・平成23年所得（簡易調査）は、新推計②で**516.0万円**、新推計③で**529.5万円**
- ・平成24年所得（大規模調査）は、新推計②で**516.2万円**、新推計③で**526.0万円**
- ・平成25年所得（簡易調査）は、新推計②で**500.2万円**、新推計③で**514.3万円**
- ・平成27年所得（大規模調査）は、新推計②で**523.6万円**、新推計③で**528.1万円**

となり、各年とも新推計②よりも新推計③の所得の方が高い結果となった。

これは、平成26年所得（簡易調査）と同様の結果（新推計②で513.0万円、新推計③で529.1万円）であり、新推計②と新推計③で違いがみられなかった平成21年所得が特異な結果であったと考えられる。

⇒ 結論：平成21年所得と平成26年所得の違いは、「たまたま」であると考えられる。

図 各推計方法別の1世帯当たり平均所得金額の年次推移



(参考1) 各種世帯の1世帯当たり平均所得金額の年次推移

	平成21年					22	23					24				
	現行(a)	新推計②(b)	新推計③(c)	増減②(b-a)	増減③(c-a)		現行(d)	新推計②(e)	新推計③(f)	増減②(e-d)	増減③(f-d)	現行(g)	新推計②(h)	新推計③(i)	増減②(h-g)	増減③(i-g)
全世帯(万円)	549.6	533.2	533.3	△16.4	△16.3	538.0	548.2	516.0	→ 529.5	△32.2	→ △18.7	537.2	516.2	→ 526.0	△21.0	→ △11.2
対前年増減率(%)	0.4	△2.6	△2.6	△3.0	△3.0	△2.1	1.9	△4.1	△1.6	△6.0	△3.5	△2.0	△5.8	△4.0	△3.8	△2.0
高齢者世帯(万円)	307.9	305.2	307.4	△2.7	△0.5	307.2	303.6	295.8	296.6	△7.8	△7.0	309.1	301.4	307.2	△7.7	△1.9
対前年増減率(%)	3.7	2.8	3.5	△0.9	△0.2	△0.2	△1.2	△3.7	△3.5	△2.5	△2.3	1.8	△0.7	1.2	△2.5	△0.6
児童のいる世帯(万円)	697.3	698.6	697.9	1.3	0.6	658.1	697.0	681.4	693.7	△15.6	△3.3	673.2	673.7	676.1	0.5	2.9
対前年増減率(%)	1.3	1.5	1.4	0.2	0.1	△5.6	5.9	3.5	5.4	△2.4	△0.5	△3.4	△3.3	△3.0	0.1	0.4

注: 1) 平成22年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。

2) 平成23年の数値は、福島県を除いたものである。

3) 平成27年の数値は、熊本県を除いたものである。

	25					26					27				
	現行(j)	新推計②(k)	新推計③(l)	増減②(k-j)	増減③(l-j)	現行(m)	新推計②(n)	新推計③(o)	増減②(n-m)	増減③(o-m)	現行(p)	新推計②(q)	新推計③(r)	増減②(q-p)	増減③(r-p)
全世帯(万円)	528.9	500.2	→ 514.3	△28.7	→ △14.6	541.9	513.0	529.1	△28.9	△12.8	545.4	523.6	→ 528.1	△21.8	→ △17.3
対前年増減率(%)	△1.5	△6.9	△4.3	△5.3	△2.7	2.5	△3.0	0.0	△5.5	△2.4	0.6	△3.4	△2.5	△4.0	△3.2
高齢者世帯(万円)	300.5	288.1	292.9	△12.4	△7.6	297.3	285.9	289.1	△11.4	△8.2	308.1	300.0	303.2	△8.1	△4.9
対前年増減率(%)	△2.8	△6.8	△5.2	△4.0	△2.5	△1.1	△4.9	△3.8	△3.8	△2.7	3.6	0.9	2.0	△2.7	△1.6
児童のいる世帯(万円)	696.3	677.8	688.4	△18.5	△7.9	712.9	696.4	702.6	△16.5	△10.3	707.6	701.3	698.6	△6.3	△9.0
対前年増減率(%)	3.4	0.7	2.3	△2.7	△1.2	2.4	0.0	0.9	△2.4	△1.5	△0.7	△1.6	△2.0	△0.9	△1.3

注: 1) 平成22年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。

2) 平成23年の数値は、福島県を除いたものである。

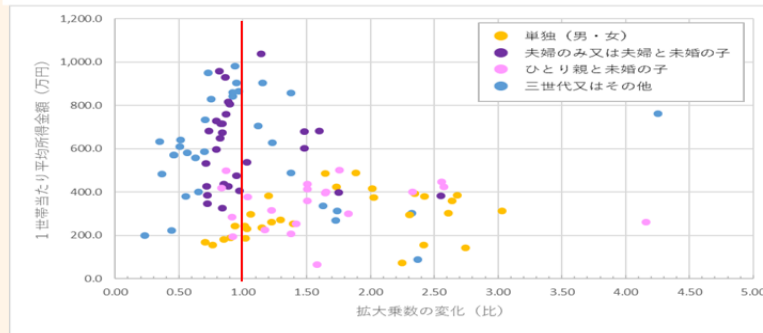
3) 平成27年の数値は、熊本県を除いたものである。

(参考2) 平成23年、24年、25年及び27年の新推計②又は③と現行推計の「拡大乗数の変化」と「所得」の相関

平成23年、24年、25年及び27年の新推計②又は③と現行推計の「拡大乗数の変化」と「所得」の相関をみると、各年とも新推計②に比べ、新推計③は比較的所得の低い層にみられた拡大乗数の大きかった区分の拡大乗数が小さくなったため、所得が増加したと考えられる。

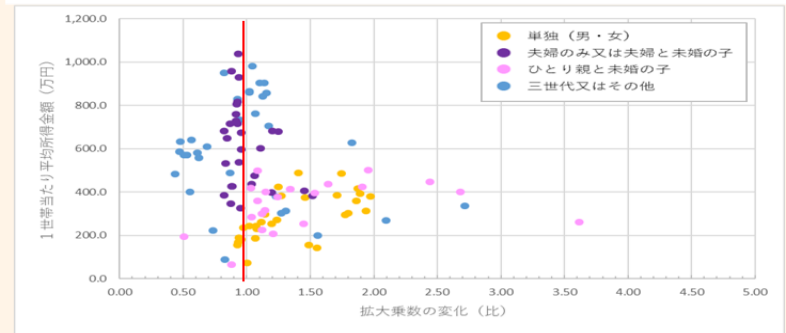
平成23年
所得

【新推計②と現行推計】
「拡大乗数の変化」と「1世帯当たり平均所得金額」の相関



相関係数： - 0.27997

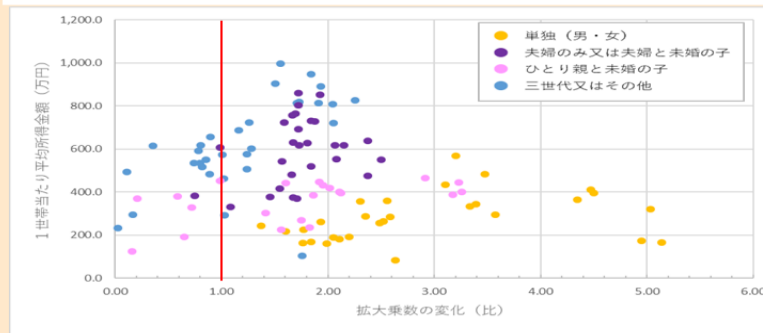
【新推計③と現行推計】
「拡大乗数の変化」と「1世帯当たり平均所得金額」の相関



相関係数： - 0.24910

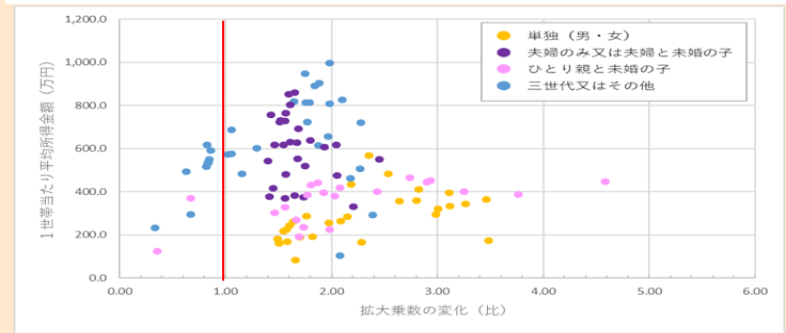
平成24年
所得

【新推計②と現行推計】
「拡大乗数の変化」と「1世帯当たり平均所得金額」の相関



相関係数： - 0.17021

【新推計③と現行推計】
「拡大乗数の変化」と「1世帯当たり平均所得金額」の相関

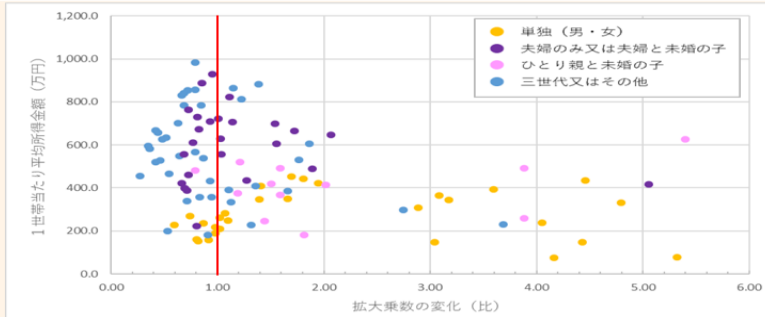


相関係数： - 0.12410

(参考2) 平成23年、24年、25年及び27年の新推計②又は③と現行推計の「拡大乗数の変化」と「所得」の相関 (続き)

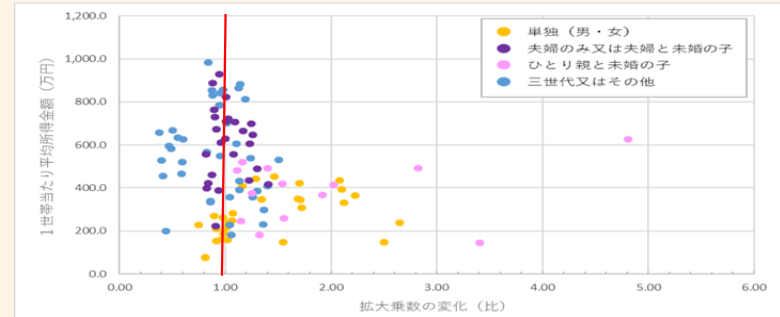
平成25年
所得

【新推計②と現行推計】
「拡大乗数の変化」と「1世帯当たり平均所得金額」の相関



相関係数： - 0.35423

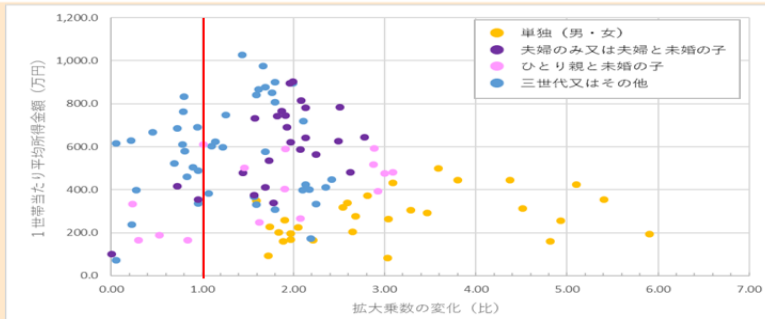
【新推計③と現行推計】
「拡大乗数の変化」と「1世帯当たり平均所得金額」の相関



相関係数： - 0.19395

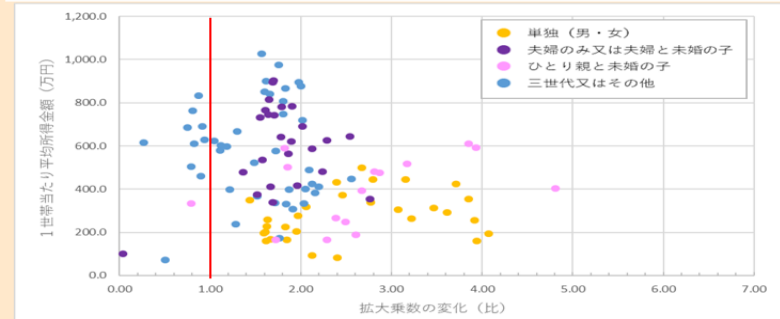
平成27年
所得

【新推計②と現行推計】
「拡大乗数の変化」と「1世帯当たり平均所得金額」の相関



相関係数： - 0.17113

【新推計③と現行推計】
「拡大乗数の変化」と「1世帯当たり平均所得金額」の相関



相関係数： - 0.23079